

「春」の息吹

あ つじ てつ じ
阿辻 哲次 京都大学教授



私たちは桜の開花とともに春の到来を感じるが、外国では春の訪れを感じるきっかけがそれぞれ異なるようだ。春先にしばらく北京で暮らしたことがあるが、中国では桜をほとんど見かけず、そのかわりアンズや海棠の花が美しかった。

各国での春の到来を実感させる光景はほとんどの場合、植物に関係しているようだ。枯れた大地が少しずつ色づく時に春を感じるのは世界共通の現象である。厳しい冬に耐えて、じっと静まりかえっていた木々や花々が、うららかな陽光をあびて成長をはじめようとする時、人はそこにたくましい生命力を感じとり、さらにその力が、これからたくましく伸びてゆくとする若い世代の活力になぞえられる。

「春」という漢字はそんな植物の芽生えを表している。「春」は今の字形と少しちがって、もともと「萐」と書かれたのだが、この形は《日》と《萐》からできており、《日》はうららかな陽光を、そして《萐》はチュン（これがシュンとなった）という音とともに、「草木の芽が伸びだすさま」を表している。

漢字は表意文字である。そのことを逆に考えれば、それぞれの文字は最初ある特定の意味を表すために造られた、ということになる。古代の中国人は、季節の移り変わりの中で太陽の光が増し、万物の生命力が旺盛に燃えだそうとする時期を、植物が芽生えるさまで表したというわけだ。